

港南中学校美術部の3人が2作品展で上位入賞



留萌市立港南中学校美術部
部長 太田舞さん

初の快挙連続に驚きの声
部員全員で喜びを分かち

港南中学校美術部が、公益財団法人日本海事広報協会など主催の第51回全国中学生海の絵画コンクールで銀賞および銅賞、神田日勝記念美術館主催の第20回馬の絵作品展で最高賞となる文部科学大臣賞を受賞するなど、輝かしい成績を収めました。同美術部長の太田舞さん（3年）にお話を伺いました。

今年の港南中学校美術部の活躍は目を見張るものがあり、第51回全国中学生海の絵画コンクールで、舛田千依さん（3年）が銀賞、渡部真美さん（1年）が銅賞に入賞しました。また、この全国コンクールへの作品の推薦を決める北

海道コンクールでも、同美術部から7人が入賞しました。さらに、第20回馬の絵作品展では、檜森夢佳さん（3年）が最高賞の文部科学大臣賞を受賞するなど、うれしい報告が相次いで届いたことに驚くとともに、海の絵画



▲前列左から太田舞さん（3年）、舛田千依さん（3年）、渡部真美さん（1年）、檜森夢佳さん（3年）と港南中学校美術部

コンクール銀賞受賞は港南中学校初、馬の絵作品展文部科学大臣賞受賞は留萌市内初の快挙と聞いて、部員全員で自分のことのように喜びを分かち合っています。美術部顧問の梅原賢伸先生は、部員一人ひとりの個性を伸ばしてくるよう分かりやすく、丁寧に指導してくれました。制作は、作品展やコンクールな

どに向け、部員全員で同じテーマに沿って、写真を参考に創造力をかき立てて挑んでいます。同じテーマを全員で共有することで、お互いの刺激になり、技術の向上と良い意味での対抗心につながっていると感じています。まもなく3年生は、部活動を引退しますが、美術部での経験は、感性を豊かにし、学校生活を楽しいものにしてくれました。後輩には、技術の向上だけではなく、美術部での活動を通して、豊かな感性と仲間を大切に作る気持ちを大事にするとともに、さまざまな作品の制作にチャレンジし、これからの港南中学校美術部をもっと活気づけてほしいと思います。

立て続けの快挙に喜びにわく港南中学校美術部。絵を描く楽しさと技術、表現力に磨きをかけ、さらに上を目指した活動に期待します。

お問い合わせは
問 留萌市立港南中学校
42-1898

留萌千望高校商業研究部が初の海外出品



留萌千望高校商業研究部
前部長 佐藤成望さん

台湾でも「とばせん」好評
新デザインで魅力発信！

9月6日(出)、7日(回)に、台湾で開かれた試食・販売イベントに留萌千望高校商業研究部が、「留萌のとばせん」を出品し、高い評価を得ました。商業研究部が開発した商品が海外で展開されるのは初めてです。海外向けのパッケージをデザインした同商業研究部前部長の佐藤成望さん（3年）にお話を伺いました。

留萌千望高校では、授業の一環として「地域の活性化」をテーマに、さまざまな商品開発などに取り組んでいます。「留萌のとばせん」もその一つで、平成23年度の卒業生が、捨てられてしまうサケの皮を油で素揚げし、

塩で味付けした商品を開発して、市内を中心に販売を開始したところ、好評をいただきました。今回の台湾でのイベントに出品するきっかけも、2月に札幌で開かれた「第12回北海道フードフェア」に出品した「留萌のとばせん」



▲地域の活力をテーマに、さまざまな商品開発などに取り組む留萌千望高校商業研究部



▲台湾向けに新たにデザインした商品パッケージ

を神奈川県企業のの方が商品を入り、声をかけていただいたこととです。

台湾向けに、新しいパッケージのデザインを部として初めて挑戦することになり、商品の特徴をアピールし、見た目にも楽しさを感じるデザインをテーマに、部員全員でアイデアを出しあいました。

台湾でも人気の「萌えキャラ」に現地の民族衣装、手にサケを持たせたデザインを採用しましたが、納得がいくまで何度も書き直し、やっと完成しました。台湾のイベントでは、用意した200個の商品は完売し、さらにイベント会場を訪れた業者のうち3社から、商品の引き合いや問い合わせをいただくなど、大きな手応えを感じました。自分たちの頑張りが評価されたことを、とてもうれしく思います。

また、先輩たちが開発した商品が、海外でも高く評価されたことがなによりも大きな誇りです。後輩たちには、失敗を恐れられない強い気持ちとあふれるアイデアで、これからも地域に根ざした商品開発に挑み、大好きな留萌を盛り上げてほしいと思います。

生徒たちが開発に取り組む、さまざまな商品。地域を想う気持ちと行動力が、「留萌ならでは」の新しい商品開発の大きな原動力となっています。

お問い合わせは
問 北海道留萌千望高等学校
42-2474